

平成 27 年度 第 2 回大学地域連携強化プラン懇話会 会議録

- 日 時：平成 27 年 11 月 15 日（木）15 時 00 分 ～ 16 時 50 分
- 場 所：市民交流センター 5F 大会議室
- 出席委員：青木委員、加藤委員、小沢委員、肥塚委員、武田委員、近清委員、
二神委員、堀江委員
- 欠席委員：齋藤委員、福井委員
- 事務局：山本副部長、古川参事、溝内参事、林沼主査
- 傍聴者：4 名

1 開会

【事務局】

お忙しい中、懇話会にご出席いただきありがとうございます。本日は、アーバンデザインセンターについての計画を説明させていただきますので、皆様からご意見を頂きたいと考えております。よろしくお願いいたします。

2 委員自己紹介

前回代理出席だった委員の自己紹介

3 第 1 回会議録の確認

【事務局】

- ・この議事録は、皆さんの承認が得られたのち、ホームページに公開します。

了承された。

4 草津版アーバンデザインセンター（UDC）の概要（案）について

【事務局】

<資料に基づき説明>

5 意見交換

【座長】

- ・まず、機能と役割についてのご意見を頂きたい。

【A 委員】

- ・アーバンデザインセンターの対象は、どの範囲に住んでおられる方を想定しているのか。
- ・目的が書かれているが、端的に分かりやすい言葉で表す必要がある。

【座長】

- ・この2点については、今後議論していきたい。

【B 委員】

- ・草津駅近くに設置予定の市民交流センターとの関係はどうなるのか。
- ・総合戦略での位置づけはどうなっているのか。

【事務局】

- ・草津市は新草津川で南北に分断されている。そのため、現在草津駅前に計画されている市民交流センターは、新草津川の南側に住んでいる方にとっては利用しにくく、学生の方の参加が難しいことから、機能・目的は違いますが、交流の拠点を南草津にも設ける計画にしました。
- ・このアーバンデザインセンターの対象地域は、南草津でスタートするが、全市域、さらに、周辺市にも広めていく予定です。
- ・アーバンデザインセンターは、まちづくりの拠点として総合戦略に明確に位置づける予定です。

【C 委員】

- ・松山は、FM 放送の番組を持っているということだが、どのような内容なのか。
- ・福岡の「まちの学校」は、メンバー登録制となっているが、草津市の場合、同様の取り組みをしたとき、対象をどのようにするのか。

【事務局】

- ・松山の FM 番組の具体的な内容までは把握していない。
- ・くさつ FM は、情報発信の手段として考えている。
- ・学習・交流の取組については、広い意味での「市民」（住民、通勤・通学している人、市内で活動している団体や事業所）を対象にと考えている。

【C 委員】

- ・テレビを利用するくらいでないとインパクトが弱い。みんなが参加でき、草津の企業の CM も入れるくらいしないと広まらないし、市民や学生の興味をひかないのではないかな。

【D 委員】

- ・昼間時間のある学生、子育て中の母親、高齢者をターゲットとしていると理解してよいか。

【事務局】

- ・働いている人は、昼間の利用は難しいので、夕方や夜に参加しやすいプログラムが必要であると考えている。

【E 委員】

- ・地域には、まちづくりに関わっている既存の団体（自治会、自治連合会、まちづくり協議会等）がある。これらとの役割分担が明確でない。役割の整理が必要である。

【F 委員】

- ・市民や学生がどのようにまちづくりに関わるのかイメージできない。
- ・このような施設には、何か仕掛けがないと人は集まらないのではないかな。
- ・何か得られるところでないと人は集まらない。
- ・イベントを行い、人を集めるには体力が必要である。

【G 委員】

- ・（アーバンセンターは）決める所ではない。
- ・市の職員が一市民として参加し、気軽に話せる場所であるとよい。

【座長】

- ・市の職員が肩書きを外して、専門知識を持った一市民として参加し、情報交換することで新しい知識を得て、アイデアが生まれる場であるという他の UDC の在り方を参考にすることが必要。

【D 委員】

- ・子育て中の母親の中には、いろいろやりたいことがある、学生ともコラボしたい、しかし、集まる場所がない、やり方が分からないという方が多くいる。
- ・自治会にもかかわれない人も多くいて、集まれる場所がない。

- ・「未来創造セミナー」のような、さまざまな人が集まり話し合える場所があるとよい。

【F 委員】

- ・箱物だけではだめで、人が集まれるプログラムを生み出し続けられるようにすべきである。

【B 委員】

- ・結局、最初に A 委員がおっしゃったように、目的を明確にしていく必要がある。
- ・最初に説明のあったものはたたき台なので、これを基に議論していけないのではないか。

【座長】

- ・出発は、幅広いものにしておき、いろいろな取り組みをしていく中で、草津版のアーバンデザインセンターはこれだというものを見つけることになると考えている。事務局の案はそういうものだと思って見ていただきたい。
- ・実際にやってみないと分からないので、現段階では、皆さんの考えの最大公約数的なものを目的にしておけばよいと思う。

【G 委員】

- ・まだここまでは決まっていないと思うが、社会実験等は大事な取り組みであるが、このような事業を支援する場合、どういう種類の事業を対象にするか、あるいはどのように決めていくのかについては、一度議論が必要である。

【A 委員】

- ・最初からフル活動はできない。どのような取り組みをどの時期から始めるのか、タイムスケジュールが必要である。

【事務局】

- ・最初は、地域を知る、お互いを知ることから始め、その後課題の構造化を取組たいと考えている。
- ・来年 10 月からの開設を目標としている。来年度の前半は、市民参加によるワークショップなどでアーバンデザインセンターの開館時間や利用ルールなどを考える予定である。

【A 委員】

- ・興味のある人しか参加しないので、より多くの人の参加を得るためには、最初

の取組の前段階を工夫する必要がある。

【座長】

- ・人を集めるためにはテーマ設定が重要になる。
- ・できるものからやるスタンスでよいのではないか。

【D 委員】

- ・学生はどうしたら来るのか。

【C 委員】

- ・私も同感である。学生が昼間参加できるのか。

【G 委員】

- ・学年による。3年後期になると時間に余裕ができる。
- ・本当は、1年生から参加できるとよい。
- ・まさに居場所があるのがよい。

【C 委員】

- ・地域を知りたいという学生がいるだろうか。

【D 委員】

- ・昼間、コーヒーを飲めるところに学生はいる。

【事務局】

- ・見知らぬ者同士が話せる雰囲気の中から、共通する関心事、やりたいことを見つけてることができる空間を造っていきたい。
- ・次につながる仕掛けをデザインしていくことが重要であると考えている。

【E 委員】

- ・学生を集めるにはやはりテーマが重要である。
- ・学生が学んでいるテーマに関係するものであれば、ゼミの先生からの指導もあり得る。

【A 委員】

- ・ゼミが開けるようなスペースがあるとよい。

【B 委員】

- ・学生を集めるには、やはり仕掛けが必要である。
- ・今の学生には、自由な時間があまりないように見える

【G 委員】

- ・イベントで集まる学生も必要だが、固定化した、閉じた雰囲気も必要である。

【座長】

- ・オープンな面とクローズな面の両方あってよい。
- ・その中から、この施設の運営に関わってくれる人が出てくるとよい。

【G 委員】

- ・サークルのようになると良い。

【座長】

- ・次に、拠点としての場所や条件等について意見を頂きたい。

【D 委員】

- ・場所は、学生が集まりやすいことを考えると、南草津駅の東側になる。

【G 委員】

- ・やや落ち着いた雰囲気であることも大事である。
- ・迎え入れやすさ、「ついでに立ち寄る」ということが重要である。

【E 委員】

- ・他市の事例からも1階にあることが重要な条件である。

【C 委員】

- ・舞台やスクリーンがあり、屋外イベントが常時できる所が必要。

【D 委員】

- ・南草津駅の東側は、子どもにとっては危ないイメージがある。子育て環境としては西側がよい。

【G 委員】

- ・たくさんの人が「施設がそこにある」ということを知っていることが重要である。

【座長】

- ・学生にとっては線路から見えることが必要である。

【A 委員】

- ・施設のレイアウトはもっと自由でよい。

【G 委員】

- ・利用者が自分で持って来るといふ発想もあつてよい。

【座長】

- ・全体を通じて何かありましたら。

【D 委員】

- ・学生の意見を聞く機会があつてよい。

【G 委員】

- ・ゼミ生に聞いてメモを持ってきます。

【A 委員】

- ・運営に市民が入ってもらふ方がよい。

【座長】

- ・構成団体はこのよふな構成になるのはしかたがないと思ふ。
- ・執行には市民の方に入ってもらえる。

6 閉会

【座長】

それでは本日の意見交換はこれで終わります。

7 今後の予定について

【事務局】

第3回

日時：平成28年1月下旬から2月上旬を予定

場所：未定（市役所庁舎、または市民交流プラザ）

以上。